

令和6年度 全国学力・学習状況調査 鴻巣市の結果の概要【小学校】

1 鴻巣市と埼玉県・全国との正答率比較

	国 語	算 数
鴻巣市	6 9	6 3
埼玉県	6 9	6 4
全 国	6 7 . 7	6 3 . 4

2 小学校各教科の領域・区分等について

国語	「話すこと・聞くこと」は、全国・県平均を下回っています。 「書くこと」は、全国・県平均を下回っています。 「読むこと」は、全国・県平均を上回っています。 「言葉の特徴や使い方に関する事項」は、全国・県平均を上回っています。 「情報の扱い方に関する事項」は、全国平均を上回り、県平均を下回っています。 「我が国の言語文化に関する事項」は、全国・県平均を下回っています。
算数	「数と計算」は、全国・県平均を下回っています。 「図形」は、全国・県平均を下回っています。 「変化と関係」は、全国・県平均を下回っています。 「データの活用」は、全国・県平均を上回っています。

3 質問紙調査から（一部抜粋）当てはまる・どちらかといえば当てはまるを選んだ児童の割合

質問事項	鴻巣市	埼玉県	(差)	全 国	(差)
将来の夢や目標を持っていますか	83.5	83.6	－0.1	82.4	＋1.1
学校に行くのは楽しいと思いますか	89.1	86.3	＋2.8	84.8	＋4.3
自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか	82	78.4	＋3.6	75.8	＋6.2
地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか	86.9	84.3	＋2.6	83.5	＋3.4
5年生までに受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていましたか	89.8	86.8	＋3	84.3	＋5.5
学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか	88.1	88.9	－0.8	86.3	＋1.8
道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか	89.9	91.1	－1.2	88.2	＋1.7
国語の勉強は大切だと思いますか	96.2	95.1	＋1.1	94.5	＋1.7
算数の勉強は大切だと思いますか	96	95.1	＋0.9	94.6	＋1.4

4 学習指導改善のための今後の方策

各学校の実情に応じて、以下の取組を推進してまいります。

【鴻巣市学習指導の重点】

- 適切な課題を設定し、児童生徒が見通しをもって学習するとともに、学んだことを自分の言葉で表現するなど、一人一人が学習の成果を振り返ることができる授業を展開していきます。
- 学習課題について一人一人が考える時間を十分に確保し、自分の考えをもって他者と交流することで、考えを深めていくことができる授業を展開していきます。
- 学んだことが確実に定着するよう、授業の中でまとめの練習問題に取り組むとともに、新たな課題を見付けたり、日常生活に活用したりできる授業を展開していきます。

【各教科における指導方法の改善】＜国語＞

○〔言葉の特徴や使い方に関する事項〕

＜重点：文の中における主語と述語との関係を捉える＞

- ・日常的に主語が何かを意識して文章を読んだり書いたりすることが重要です。「～が」、「～は」、「～も」のように主語の表し方は様々にあることや、主語と述語が離れて表されている場合があることに留意して指導していきます。

○〔情報の扱い方に関する事項〕

＜重点：情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解して使う＞

- ・様々な図示の方法に触れることを通して、児童がそれぞれの方法で考えを明確にしたり思考をまとめたりすることができることを理解し、使うことができるようにすることが大切です。「B書くこと」の(1)アやイなどの材料を集めて整理したり、構成を検討したりすることに関する指導事項との関連を図り、指導の効果を高めることができるよう指導していきます。

○〔我が国の言語文化に関する事項〕

＜重点：日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに役立つことに気付く＞

- ・国語科における、「読むこと」の学習との関連を意識して読書活動の年間指導計画を立て、「朝の読書活動」や「読書の記録」等の取組を通して、日常的に読書に親しむことができるようにすることが大切です。「読書の記録」を見返すなどして、児童自身の気付きを引き出す学習場面を設定するなどの指導をしていきます。

○〔話すこと・聞くこと〕

＜重点：資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫する＞

- ・実際に話す場面では、聞き手のうなずきや表情などにも注意しながら、聞き手の状況に応じて表現を工夫することが大切です。学習指導に当たっては、相手や目的を意識しながら、自分の考えが伝わるように表現を工夫するよう指導することが重要です。音声言語だけでは聞き手が理解しにくかったり、誤解を招きそうだったりする場合などに資料を使いながら話すことや、聞き手の興味・関心や情報量を予想し、どのような資料を用意すればよいかを考える場面を設定するなどして指導していきます。

○〔書くこと〕

＜重点：目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書く＞

- ・事実と感想、意見とを区別して書くためには、事実を客観的に書くこととともに、その事実と感想や意見との関係を十分捉えて書くことが重要です。このことは、自分の考えたことなどが客観的な事実と裏付けられたものになっているかどうかを振り返り、自分の考えをより深めていくことにもつながります。学習指導に当たっては、文章を書く目的や意図に応じて伝えたいことを明確にし、客観的な事実を取り上げることで考えをより深めていくことができるようにすることが大切です。そのためには、取り上げた事実が、自分の考えを裏付けるものになっているかどうかを振り返り、事実と考えとの関係を明確にできるようにする必要があります。事実あるいは考えのどちらかが不足している児童には、伝えたいことを児童同士で交流しながら、それを支える事実としてふさわしいものを取り上げられているかを確認したり、事実を裏付けとすることでどのような考えを伝えたいのかを確認したりすることができるよう、児童同士で書いた文章を読み合い確かめ合う場面を設定するなどして指導していきます。

○〔読むこと〕

＜重点：登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉える＞

- ・登場人物の相互関係や心情などを捉えるためには、描写に着目しながら読み進めていくことが重要です。登場人物の心情は直接的に描写されている場合もありますが、暗示的に表現されている場合もあります。このような表現の仕方にも注意し、想像を豊かにしながら読むことが大切になります。学習指導に当たっては、登場人物の行動や会話などについて、登場人物相互の関係と結び付けながら想像したり、場面の様子と登場人物の心情の関係に着目したりすることなどを通して、描写を基に登場人物の相互関係や心情などについて捉えることができるようにしていきます。

【各教科における指導方法の改善】＜算数＞

○〔数と計算〕

＜重点：問題場面の数量の関係を捉え、式に表す＞

- ・計算に関して成り立つ性質を活用して、計算を能率的に処理できる場合があることに気付き、計算を工夫できるようにすることが重要です。例えば、学力調査の設問を用いて、トラック2台で運ぶことができる米の重さが700kgであることを基に、トラック16台で運ぶことができる米の重さの求め方を考え、説明する活動を取り入れる等、指導していきます。

○〔図形〕

＜重点：球の直径の長さや立方体の一辺の長さの関係を捉え、立方体の体積の求め方を式に表す＞

- ・身の回りの形から図形を捉え、図形を構成する要素を見だし、体積を求めるために必要な情報を判断できるようにすることが重要です。指導に当たっては、例えば、学力調査の設問のように、球の形をしたボールがぴったり入る立方体の形をした紙の箱の体積を調べる活動が考えられます。その際、立方体を真上や真横から観察するなどして、球はどこから見ても同じ円であることや、その円の直径の長さは球の直径の長さと等しく、立方体の一辺の長さと等しいことを理解できるように指導していきます。

○〔変化と関係〕

＜重点：道のりが等しい場合の速さについて、時間を基に判断し、その理由を言葉や数を用いて記述する＞

- ・場面や目的に応じて、単位時間あたりに移動する長さや、一定の長さを移動するのにかかる時間として速さを捉え、速さを比べることができるようにすることが重要です。指導に当たっては、例えば、学力調査の設問を用いて、二人の歩く速さの比べ方を考察する活動が考えられます。その際、二人の歩いた道のりとかかった時間を確認し、道がまっすぐであることや曲がっていることに関係なく、二人の歩いた道のりが等しい場合はかかった時間で速さを比べることができることを説明できるよう、指導していきます。

○〔データの活用〕

＜重点：折れ線グラフから必要な数値を読み取り、条件に当てはまることを言葉と数を用いて記述する＞

- ・日常生活の場面のデータをグラフに表し、そのグラフから特徴や傾向を捉え、見いだしたことを表現できるようにすることが重要です。その際、グラフのどの部分を基に、必要な情報を読み取ったかを表現できるようにすることが大切です。指導に当たっては、例えば、学力調査の設問を用いて、3月の回数と4月の回数の折れ線グラフを読み取って捉えたことを伝え合う活動が考えられます。その際、グラフの傾きや重なりなどに着目して、データの特徴や傾向について捉えるとともに、折れ線グラフの数値を読み取り、3月の回数と4月の回数の差を正しく求めることができるよう、指導していきます。